



NEWS RELEASE

～熱ショックタンパク質が大動脈硬化症に与える影響を一部解明～

発表のポイント

- ・大動脈に粥腫（じゅくしゅ：血管の内膜面にコレステロールが沈着して塊となっている状態）ができる前のマウス（若いマウス）において熱ショックタンパク質を発現を増加させると、大動脈硬化症の進行が抑制された。
- ・逆に大動脈に粥腫ができた後のマウス（年老いたマウス）において熱ショックタンパク質を発現を増加させると、大動脈硬化症の進行が促進された。
- ・今回の発見は、熱ショックタンパク質の発現の調節が、大動脈硬化症の予防および治療のための潜在的なアプローチとなる可能性がある。

発表概要

岡山理科大学の橋川直也准教授、橋川成美准教授らの研究グループは、熱ショックタンパク質(HSP)が大動脈硬化症の進行に大きな影響を与えることを明らかにしました。

HSPは、温浴などにより発現が増加することが知られているタンパク質です。今回の研究から、大動脈硬化症の進行において、HSPの発現の増加は大動脈の状態により全く逆の効果をもたらす可能性が明らかとなりました。

本研究成果は2021年3月29日午後7時（日本時間）、英国の科学雑誌「Scientific Reports」（Nature Publishing Group）に掲載されます。本研究はJSPS科研費（19770154）の助成を受けたものです。

発表雑誌

雑誌名：Scientific Reports (Nature Publishing Group)

論文タイトル：Effects from the Induction of Heat Shock Proteins in a Murine Model due to Progression of Aortic Atherosclerosis

著者：橋川直也¹、井戸優伸¹、森田裕奈¹、橋川成美¹

1. 岡山理科大学・理学部・臨床生命科学科

本件に関するお問い合わせ先

橋川 直也（岡山理科大学・理学部・臨床生命科学科）

TEL：086-256-9690 E-mail：hashikawa@dls.ous.ac.jp

